

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
安心	安心して暮らす	安心して子どもを育てる 人々が暮らし続けるように子どもを安心して生み母子ともに健やかに成長することができる地域での子育てや環境づくりをめざします。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
妊娠・出産	<ul style="list-style-type: none"> 市内に出産できる病院がない。里帰り出産しようと思ってもできない 出産後、継続的に子育てに関わってもらえる仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> 産科の利便性の確保 産前・産後の支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 市立恵那病院の整備 	安心
保育	<ul style="list-style-type: none"> 共働き世帯の増加 未就園児に開かれている地域ごとの一時預かりの場が少ない 需要の増加によるサービスの質の確保 潜在的待機児童 保育料が高い 小1の壁（保育園に対して学童の終了時間が早い） 保育園の運営体制（警報が出るとすぐ迎えが必要 年末年始、年度初めに休まなければならない 年度初めは、預けられてもお弁当持ち） 病気時・病後児保育の体制（核家族で困るのが子供が病気になった時、費用面、システム面で使いやすいといい） 放課後児童クラブがない地域（串原・飯地・東野・上矢作）がある 放課後児童クラブがあっても定員超過する地域がある 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子育て支援体制の充実 保育サービスの拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 保育料等のバックアップが必要 保護者の働き方に合った保育サービスの充実（休日保育、病後児、一時あずかりなど） 職場や個人宅などでの託児のしくみづくりと支援 保育園給食の自園方式の実施 放課後児童クラブの量的な拡充 トワイライトスクール（学習機会の確保）、親のニーズに合った放課後児童クラブの全小学校での実施 一人親家庭への支援 警報時の共働き世帯などの子どもの送り迎えの支援 放課後児童クラブと放課後子ども教室との一体化（放課後子ども総合プラン） 	安心
教育	<ul style="list-style-type: none"> いじめ、不登校 教育費の増加 経済な問題で同じ教育が受けられない 	<ul style="list-style-type: none"> 教育を受ける機会の保障 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生への奨学金の実施など学費等の支援 いじめ、不登校の未然防止 一人親家庭への支援 	安心

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
安心	安心して暮らす	安心して働ける 市内に住む続けることができるように、地域特性を活用した雇用の場づくりや、市内や通勤可能な地域において雇用の場を確保するとともに、安心して働くことができる環境をつくる。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
雇用対策	<ul style="list-style-type: none"> 派遣、フリーター対策 高齢者、障がい者の就労機会 高校生、大学生の地元への就職（事業所が少なく、求める職種に限られるため、子どもが市外、県外へ流出） 福祉現場の担い手不足 企業の求人と働きたい人の要望（給料、仕事内容）が合わない 子育てをしながら、子供に心身の無理をさせない時間での労働できる環境がほしい 子育てが一段落したお母さんの働き場所が少ない 事務系を求める人が多く、職種としてのバランスが取れていない 	<ul style="list-style-type: none"> 若年層が定住できる雇用の確保 子育て世代のニーズにあった雇用の充実 高齢者、障がい者の就労機会の確保 安定した雇用の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 交通（道路・公共交通）の便利などにする（通勤範囲を広げる） 正規雇用を増やす 地域の中で雇用をつくる 住宅環境を整える（家を建てやすくする、子育てを応援する） 子育てしながら働ける企業のリストづくり 	安心
労働環境	<ul style="list-style-type: none"> 長時間労働 労働災害（メンタルヘルスを含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランス（仕事の生活の調和） 	<ul style="list-style-type: none"> 一般就労だけではない新たな働き方の創造 企業への、子育てしながら働けるような風土づくりの啓発を行う（育児休暇取得等） 	安心

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策	
安心	安心して暮らす	健康を維持・増進する	一人ひとりが健康についての意識を高めて、できるだけ元気に長寿社会を楽しむことができるように支援します。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
健康意識	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育が十分でない ・医療費、介護保険給付費の増大（個人負担の増加） ・生活習慣病の増加 ・健康診断を受診する人が増えない ・2025年問題（団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる） ・健康を精神的、社会的な健康まで捉えることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に対する意識を高める（啓発の充実等） ・生活習慣病予防・介護予防の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の受診率の向上（健診受診者より健診未受診者の方が医療費が高くなる） ・小さいうちから健康が大切だと教育として伝えることが必要 	安心
健康づくりのための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・病気になるために、生きがいと健康づくりの土台が必要 ・サロン等気軽に集う場所が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりに取り組みやすい環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣のある人を増やす ・地域のスポーツクラブの充実 ・高齢者の居場所づくり（サロン・コミュニティカフェ等）の確保 	安心

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
安心	安心して暮らす	日々の暮らしを守る 高齢者が障がい者ができるだけ自立して暮らすことができ、社会の中でも役割を担いきいきと活動することができる包摂型社会を目指す。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 急速に進む超高齢化社会に対応する健康づくりと介護が必要な方の増加及び介護の重度化を抑えるための介護予防 ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、日中独居の方が増加している 介護予防事業を推進するため、地域のボランティアを育成する必要がある 日常生活支援サービスの充実、老老介護の支援 地域での相談支援体制 ニーズに応じた福祉サービスの質と量の確保 地域の末端までの確実にフォローできるネットワークシステムの構築 2025年問題（団塊の世代が後期高齢者になる） 平成29年度までに要支援1、要支援2の認定者は市の地域支援事業へ移行 地域での助け合いが必要 生きがいづくりと社会参加や高齢者の地域での活用方法を検討する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりと介護予防の推進 安心できる介護サービスの提供 生きがいづくりと社会参加の推進 地域包括ケアシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のスキルの活用 各振興事務所に相談窓口の設置（地域間格差の是正）など地域での相談支援体制の充実 元気な高齢者も参加する地域での高齢者をサポートする仕組みづくり 	安心
障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者への理解不足（配慮の欠如等） 地域参加、社会参加ができる環境づくりが必要 相談支援体制 需要の増加によるサービスの質の確保 精神障害者の増加 小学生からの療育がない 学童、ショートステイ等預かりサービスの不足 施設入所、グループホーム（親亡き後の対応） 就労できない人の居場所が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 障害者への理解と社会参加の推進 地域で共生できる障がい者福祉、継ぎ目のない障がい者福祉サービスの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 障害児・者への理解を深めるため、本人と家族を支えるシステム作り 知る機会、交流できる場の設定（例：通常の小学校と支援学校の交流） 日中活動の場所の確保 農業など障がい者が働く場を確保する 	安心
社会参加	<ul style="list-style-type: none"> 包摂型社会という概念が社会的に認知されていない グローバルズムに伴う格差社会 生活困窮者対策の遅れ、貧困の連鎖への対策 就労困難者（ニート、ひきこもり）対策の遅れ 	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者・就労困難者への支援 子どもに教育を受ける機会を保障する 高齢者、障害者の出番づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 支援側から働きかけ（現場に向向く等） 	安心

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
安心	生命と財産を守る	医療と救急を充実する

市民病院や診療所、地域の医療体制を充実するとともに、急病や怪我などから命を救うことができる救急体制の充実をめざす。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師および医療スタッフの不足 ・ 新恵那病院の運営（費用対効果）や診療科目が少ない（特に脳外科、心臓、循環器系）こと ・ 医療機器の更新 ・ 上矢作病院の老朽化、および各診療所の老朽化対策や、地域内の病院・診療所の継続 ・ 産婦人科・小児科の不足 ・ 地域での相談支援体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師および医療スタッフの確保 ・ 産婦人科・小児科を中心とした診療科目の充実 ・ 病院、診療所の効率的な管理・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恵那病院の資産（開放ベッド10床、MRIデータ）を利用した診療所・医院とのネットワークの充実 ・ 各振興事務所に相談窓口の設置（地域間格差の是正） 	安心
救急	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急隊の現場到着時間の地域格差 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救命率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドクターヘリの効果的な活用 ・ ドクターカーの導入 ・ 救急救命士を増員 ・ 広域連携の推進 	安心

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策	
安心	生命と財産を守る	犯罪や事故を防ぐ	犯罪者に狙われないようにすることや、交通弱者を守るために、地域が一体となった見回り・見守り活動や道路環境の充実を目指す。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭犯罪や侵入盗等身近な犯罪の増加 ・振り込め詐欺等による被害 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での防犯体制の強化 ・高齢者等への啓発の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロールの実施 	安心
交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、高齢者、障がい者等への啓発 ・運転者にも啓発活動が必要 ・危険ドラッグの服用による交通事故の増加している ・交通安全施設整備（カーブミラー・ガードレール等）の対応 ・通学路の歩道の未設置、通学路で用水路がふさがっておらず車が通ると危険な箇所がある。 ・歩道がきちんと整備されていないおらず、視覚障がい者にとって危険 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通弱者（子ども、高齢者、障がい者等）と運転者双方への啓発機会の拡大 ・安全な通学路の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の集団登下校の推進 ・カラー舗装による交通安全意識を喚起する。 ・通学路の歩道確保 ・通学での有害鳥獣対策 	安心

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
安心	生命と財産を守る	災害から身を守る
		地震や水害等の災害、火災から命を守り、できるだけ被害を少なくするように地域や家庭における備えを充実することを目指します。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の防災に対する危険意識が低い（避難所が本当に大丈夫か確認が必要） ・地域での助け合いや災害弱者の把握に不安がある ・古い住宅等は倒壊の恐れがある ・移動手段の無い老人世帯等の避難に不安がある ・屋間における防災体制が弱い（担い手が勤務で町内にいない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の向上 ・地域防災力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃からの防災意識を高める ・住宅の耐震化の啓発、支援 ・各自治会での取り組みを強化する ・避難所の見直し（過去に浸水した避難所が指定されている） 	安心
減災	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時にライフラインが寸断された場合の不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインの確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急輸送道路の整備 ・ハザードマップ危険区域の住宅建築等をしっかり規制 ・食料は地産地消でまかなう。小水力発電、太陽光発電の整備の充実 ・常備薬が他人にもわかるように、まとめて冷蔵庫の中に入れておく ・井戸水が利用できる場所を確保する ・中学生や高校生を災害対策に活用するために防災・減災教育を実施する ・企業との協力（防災協定等） 	安心
消防	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の現場到着時間の地域格差 ・消防団員の減少（遠隔地で団員が減少すると常備消防の到着が遠いので有効な消防活動に支障） ・消防隊員の隊員数の違い（住民サービス格差になる） ・地域防災では消防団員が人探し等に駆り出され、子育てもあり負担が大きいので消防活動等を見直す時期 ・岩村消防署、明智消防署、上矢作分署の庁舎の老朽化 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団員の確保 ・消防団のあり方を検討（機能別消防団員等） ・消防団への理解促進・加入促進 ・消防活動等についてOBや高齢者の力を借りる ・企業との協力体制をつくる（企業と地域組織の連携等） ・広域連携の推進 	安心

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
快適	まちの魅力を高める	自然を守り、活かす

豊かな自然と調和したまちとするため、山林や里山、河川などの自然環境を長期的な視野で保全するとともに、市民等が親しめる場としての活用を図ります。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
山林の活用と保全	<ul style="list-style-type: none"> ・人工林の整備不足で、荒廃化している。 ・森林の公益的機能が発揮されていない。 ・間伐事業の推進、作業路の路網整備、天然林への樹種転換、地籍調査の推進を図っていくことが必要。 ・山林について市民、所有者等の現状認識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的な視野で人工林の整備を進める。 ・長期的な視野で間伐を実施する。 ・人材の育成と意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・針葉樹林に広葉樹林を植栽して針広混交林への転換を図る。 ・間伐事業を促進する。 ・地籍調査を実施する。 ・森の健康診断等森林関係講座の拡大 	快適
里山の活用と保全	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の高齢化、後継者不足により増えている耕作放棄地の対策が必要である。 ・有害鳥獣（いのしし等）による被害が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地の解消、活用を進める。 ・猟友会等の体制強化、連携強化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・営農体制の充実と強化を図る。 ・猟友会との連携を強化する。 ・被害状況の周知を図る 	快適
河川の活用と保全	<ul style="list-style-type: none"> ・水源地为保全する。 			

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
快適	まちの魅力を高める	魅力あるまち並みを創る 魅力を生かしたまち並み（景観）形成を進めるとともに、快適に暮らすことができる計画的な土地活用を進めます。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
土地	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地、空き農地が増加している。 駅周辺での駐車場が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地、空き農地の活用を図る。 駅周辺などの市街地に駐車場を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政による耕作放棄地の仲介を行う。 空き農地のバンク化を進める。 	快適
住宅	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺やテクノパーク周辺で住宅が不足している。 空き家が増加している。 駅周辺の住宅地で高齢化が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家対策を強化する。 空き家を更地にして土地として活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定優良賃貸住宅制度等など、民間活力等も活用した住宅の建替え促進を図る。 恵那暮らしサポートセンターの活動を強化する。 移住促進等の専門の人材を育成する。 	快適
景観	<ul style="list-style-type: none"> ごみのポイ捨てなどにより、景観が悪化している。 耕作放棄地の増加により、景観が悪化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ごみの落ちていないまちにする 		快適
公園	<ul style="list-style-type: none"> 公園の利活用へのニーズが多様化している。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人が訪れる場として充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを安心して遊ばせることのできる公園、自然を生かした公園、動物と遊べる公園など、多様なニーズに対応した公園の整備を進める。 	快適

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策	
快適	まちの魅力を高める	歴史・文化を活かす	文化財や伝統芸能などの歴史・文化を保存・継承しつつ、市民の学習や観光資源として活用します。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恵那市が持つ歴史的な風景を維持・向上すべき。 ・ 歴史的建造物の活用が不足している。 ・ 市民の歴史に対する認識が不足している。 ・ 史跡指定後の保存・整備がなされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡指定後の方向性を明確化し、地域と行政が一体となって保存する。 ・ 歴史的建造物のPRを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケーブルテレビを通じて歴史・文化をPRする。 	快適
文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財指定後の保存・整備がされていない。 ・ 伝統芸能・文化について保存・伝承・PRができていない。 ・ 文化的な景観の活用が不足している。 ・ 文化に対する市民の認識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財指定後の方向性を明確化し、地域と行政が一体となって保存する。 ・ 伝統芸能、祭りについてのPRを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケーブルテレビを通じて歴史・文化をPRする。 ・ 定期的に観光客へ伝統芸能を披露する。 	快適

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
快適	便利に暮らす	戦略的に道路をつくる リニア中央新幹線開業、企業誘致、観光誘客、住宅整備等明確な目的を持ち、戦略的に道路網の整備を進めます。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
道路全般に関わる財政的懸念	<ul style="list-style-type: none"> 今後、市の財政状況は厳しくなってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業のスクラップアンドビルドを進める。 		快適
幹線道路・高規格道路	<ul style="list-style-type: none"> 何のための道路なのか、整備の目的が明確でない。 道路をつくるのが目的となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を達成するための戦略的・効果的な道路整備を進める。 住宅開発や企業誘致と連動した道路整備を進める。 リニア駅開設に向けて道路整備を進める。 安全・防災対策としての道路整備等を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣他都市等（中津川市、豊田市、三河地域）と連携する幹線道路の整備を促進する。 リニア駅開設に向けての主要道路、南北の道路網や未整備路線等を整備する。 西の玄関口としての高規格道路、幹線道路を整備する。 市内西部地域から市内を周遊する道路を整備する。 環状道路を整備する。 	快適

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
快適	便利に暮らす	移動手段を充実する 公共交通をはじめとする各種の移動手段について、総合的な利便性の向上を図るとともに、公共交通の利用促進を図ります。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
全般に関わる懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通のダイヤの本数の増加、料金の値下げは現実的に厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの活用を進める。 		快適
利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利便性に対する市民の満足度が低い。 利便性が低いことから市外の病院や学校へ通う人が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通、福祉バス、スクールバス等一体的、横断的に検討し充実させるなど、総合的な交通体系の見直しを行う。 市内の人口とのバランスをとって利便性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種バス路線の連携を充実する。 目的別バスの運行を進める。 病院、学校等への交通手段を確保する。 駅前駐車場の確保、整備を進める。 	快適
運行の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ニーズにあった運行ができてない。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物、通学等時間帯のニーズにあった運行を行う。 弾力性のある運行を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉バスとして、予約できる公共交通（デマンド型交通）を進める。 深夜バスの運行を進める。 小型バスの運行を進める タクシーの相乗り 	快適
明知鉄道	<ul style="list-style-type: none"> 少子化、生徒数の減少により利用人数が低下している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の公共交通との連携を中心に、総合的な見直しを行い、市全体で利用を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市職員の率先した利用を行う。 利用形態に応じたダイヤを設定する。 明知鉄道と自主運行バスの運賃体系を見直す。 診察券を切符として扱えるようなシステムの構築を検討する。 阿木駅での行き違い設備等の整備を進める。 	快適
移動手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> 中学生のスクールバスが不便で、クラブ活動に支障がある。 高校通学において地域で公共交通網の格差がある。 高校通学において明知鉄道の料金が安い 高齢者、障がい者が買い物、通院等に不便がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通を利用する生徒への支援と利便性の確保を図る。 高齢者、障がい者が利用しやすい公共交通を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学定期の補助を行う。 予約できる公共交通（デマンド型交通）を進める。 地域移送サービスの拡大を図る。 	安心

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策	
快適	便利に暮らす	便利な消費生活を送る	生活必需品の購入が困難になりつつある地域においても買い物等ができるようにするなど、誰もが便利な消費生活を送れるようにします。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
買い物環境	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴う、買い物弱者、買い物難民が増加している。 ・中山間地域などで生活必需品が購入できる店舗が少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な販売方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売を強化、充実させる(制度化する)。 ・総合的な買い物施設を設置する。 ・訪問販売を実施する。 	快適
周辺地域の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域にガソリンスタンドや雑貨店などの店舗がない 		<ul style="list-style-type: none"> ・振興事務所等の空きスペースを利用しての販売促進。 	快適

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
快適	便利に暮らす	暮らしやすさを高める 市民の生活を支える生活道路や上下水道、ごみ処理、通信基盤などを維持・向上させ、快適な市民生活が送れるようにします。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
生活道路	<ul style="list-style-type: none"> 危険な道路・通学路の解消など、生活道路の交通安全対策や防災対策が必要。 道路沿いの枯損木など、災害につながる道路環境の改善が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全・防災対策としての道路整備等を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 未整備路線の整備を進める。 狭あい道路の拡幅を促進する。 道路（通学路）の安全対策を進める。 	快適
上下水道	<ul style="list-style-type: none"> 上水道、下水道の整備は概ね完了している。 老朽化する既存施設を整備する必要がある。 人口減少による、使用料収入が減少し、料金の値上げが必要となり、効率化を図る必要がある。（検針に多くの人件費がかかっている。） 	<ul style="list-style-type: none"> 現状を維持し、安定した水道供給をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 安定した水道供給のための整備を進める。 （将来的な希望として）水道メーターのIT化を検討する。 	快適
通信	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルテレビの内容についての不満（コンテンツが少ない、番組に面白味がない、見るメリットがない）がある。 加入率が低い（特に市街地） 企業が進出するようなIT環境ではない。 災害時の通信基盤への不安。 	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルテレビの番組内容の工夫・充実を図る。 企業誘致のため、戦略的なIT環境の整備を進める。 災害時の通信基盤の確立 	<ul style="list-style-type: none"> テレビ局から放映権を購入して放映したり、他のケーブルテレビと連携して番組の充実を図る。 視聴人口を向上させるため、第一段階として無料にする。 市に密着した番組づくりを進める。 PFInなど、民間資金を活用して整備する。 	快適
ごみ	<ul style="list-style-type: none"> 有害鳥獣の増加に伴う処分方法の確立と再利用が必要 ごみの減量が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 有害鳥獣の処分、再利用の方法を検討する。 より一層のごみの減量を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 有害鳥獣の処分にかかる費用の補助を行う。 有害鳥獣等について食としての活用方法を検討する。 各家での焼却を可能とする。 コンポストの促進を図る。 	快適
インフラ	<ul style="list-style-type: none"> 道路、橋梁、上下水施設等の老朽化 	<ul style="list-style-type: none"> 道路、橋梁、上下水施設等の健全な資産管理 	<ul style="list-style-type: none"> アセットマネジメントを行い、計画的な維持管理を実施する。維持管理にも選択と集中という考え方に沿い、身の丈に合った投資を行う。 	安心

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
活力	生き生きと暮らす	学ぶ力をつける

生涯を通じて学びたいことが学び続け、その成果を自分とともに社会に生かし、自らを高めることができる学習環境を充実します。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
三学の実践全般	<ul style="list-style-type: none"> 三学の実践が市民に知られていない 学びの入口として、読書活動が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 三学の内容の充実・周知 読書活動を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 市ウェブサイトの特設ページを設ける等、情報発信を強化する。 	活力2
基礎学習・学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 未経験局面等に対応できる人を育てるため、基礎学力を身につけることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を向上させる 	<ul style="list-style-type: none"> 幼少時より資料収集や分析・活用の学習 	活力2
部活・クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを学ぶ環境が必要（指導者が不足） 文化的活動の選択肢が少ない（例：山岡中の文化部は音楽部のみ）。運動が苦手な子や、美術が好きな子もいるため、多様に学べる環境が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 部活・クラブ活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者を探しやすい仕組みづくり（体連の「指導者バンク」の周知等） 文化活動の種類を増やす 	活力2
地域の歴史・伝承文化・伝統芸能	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化を伝えることが必要 伝統芸能・伝承文化等を伝える機会・場所が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 先人が残した歴史・伝承文化・伝統芸能を学び、子どもたちに伝える 教える機会・環境をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 伝える内容の整理 指導者の育成 学校の授業で、生涯学習の時間を設け、伝統芸能を学ぶ 地域に止まらず、地域外の人にも巻き込んだ発表の場等の推進 保存会への経済的支援 学校での指導者を作ると共に、学校への指導者配置・指導者のフォロー 	活力2
社会に出てからの学習	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ環境（時間）が無い 公民館講座など、学べる機会がある 	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ時間を作る環境を作る 学べる機会を充実・周知する 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事や地域活動に縛られ、自分のための時間が減ってしまうため、時間を作る環境づくりを行う。 託児付の講座があると参加しやすい（例：中高生ボランティアを託児で活用した事例あり） 	活力2

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策	
活力	いきいきと暮らす	共に生きる力をつける	家庭、学校、地域が一体となって、地域に誇りと愛着を持ち、社会性や協調性を有した豊かな心を持った人材を育成します。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
社会とつながる力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に誇りや愛着を持ってもらうことが重要 ・家庭や地域で、他人への思いやりやマナーを教えることが重要 ・自分だけの暮らしを守るのではなく、社会に参画する意識が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に誇りや愛着を持つ子どもを育てる ・他人を思いやれる人、マナーを守る人を育てる ・社会活動に参加させる意識付けを推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・人・自然・ふるさとを愛し、心豊かで潤いのある社会生活の維持向上を目指す ・大人の背中を見せ子どもを育てる ・地域での職場体験・キャリア教育を行う ・ジビエ料理など、年配狩猟者の知恵を継承 ・家庭訓の設定 ・人権教育 ・思いやりを育むため、地域で高齢者と子どもを交流させる ・ボランティアや社会活動に参加する意識付け（ボランティア教育） ・青少年の健全育成 ・人権教育・男女共同参画 	活力2
国際教育	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生を対象とした海外研修を行っているが、次につなげる仕組みがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修後の次につなげる機会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協会と市民グループとの連携 ・ホームステイに参加した生徒の、今後の活動への巻き込み 	活力2
IT教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ITについては、親よりも子どもの方が詳しい ・親も含めて、ITの使い方・マナー等を教える必要がある。ITの危険性だけでなく発信・活用などを含めた、ポジティブにとらえた教育が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・IT教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ITの危険性の学習 ・It活用についての学習 ・親も含めて学習機会を作る 	活力2
地域・家庭教育	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で教育することが重要 ・子育て・家庭教育の重要性の普及が必要 ・親向けの講演会等を行っているが、参加者が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域教育を推進する ・家庭教育を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりを育むため、高齢者と子どもを交流させる。 ・小学校まで中学校までといった細かい区分にとらわれず、幼年期から大学まで、一貫して地域で育てる。 ・休み期間中は、夜間外出する子が目立つので、地域でパトロールを実施 ・家庭教育の重要性を保護者に啓発（幼稚園・保育園・学校の保護者を対象とした講演会・研究会等を実施。） 	活力2
ボランティア・社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア等、社会活動への参加機会が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアなど社会活動に参加できる機会を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加できる機会を増やす ・参加機会をPRする 	活力2
子ども同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館、公園、支援センターなど、子どもが遊べるような場所の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊べるような場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディサービスセンターと児童館を複合させても良いのでは 	活力2

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
活力	生き生きと暮らす	生きがいを持って暮らす 芸術・文化やスポーツに親しみ、楽しみながら健康で充実した人生を送る 市民を増やすために、市民の芸術・文化、スポーツ活動を活発にします。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恵那市ならではの独自の文化・芸術の育成が必要 ・ 市民体育大会の参加者減 ・ 文化団体が増えない ・ 年齢や多忙を理由にスポーツをしない人が多い ・ 学べて遊べて楽しめるイベントが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市独自の文化・芸術育成を模索する ・ 活動に関わる人口を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例) 広重を活かした版画のまち ・ 初心者向けの内容（楽しめる活動） ・ 部活動やクラブ活動の活用（活動しやすい体制支援） ・ 総合型スポーツクラブの活用 ・ 医師と相談し、その人に合ったスポーツを見つける ・ 町でコラボし、文化を学びながら楽しめるイベントを行う 	活力2
指導者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者の後継者の育成が必要（例えば市内に俳句の先生がいない）。 ・ 伝統芸能を伝える後継者が少なくなっている ・ 部活の指導者が見つからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者を育成できる、専門的な活動を推進 ・ 指導者を活用できる体制を推進する。 		活力2
活動の機会・場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化・スポーツ活動を行うには、一定規模の施設が必要 ・ 市民が参加できる機会が必要 ・ 既成団体には初心者が入りにくいため、初心者向けの機会・場が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ施設、文化施設を効率的に維持する。 ・ ニーズの多様化を踏まえ、市民が参加できる機会を作る ・ 子どもたちがスポーツ・文化活動に参加できる環境を守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技スポーツの強化、一人スポーツの推進、趣味の会の育成、伝統芸能に参加できる場、公民館講座など 	活力2
活動の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の機会が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の機会を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例) 音楽劇や各週の発表会、市民スポーツ大会 	活力2

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
活力	みんなでまちをつくる	まちの担い手になる

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
移住・定住	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が増加 ・空き家を活用するにも改修費が必要 ・恵那を知るための滞在施設がない ・地域内の意識 ・移住者の知らない地域への不安と地域内のルール 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住定住者の受入増と転出抑制 ・地域及び個々の理解 ・利用希望者への提供 ・住める住宅の確保 ・地域ごとに空き家バンクをつくる ・都心と田舎暮らしを楽しむ二地域居住の推進 ・空き家改修費補助金継続 ・地域を体験する拠点の整備（今ある建物を活用） ・地域が衰退する危機感を持つ ・移住者と地域を繋げる体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・全域対象とした空き家バンクの継続、家賃補助 ・地域と行政が密着した移住定住体制、地域別空き家バンクの設置 ・空き家のPR活動（ネット等で全国的に配信） ・空き家調査の実施と利用可能な空き家の把握 ・地域で空き家調査、一入居者は地域及び所有者が選定する体制 ・多様な居住支援 ・条件を満たせば助成金アップする制度 ・民間の宿泊場所を活用する手法 ・市が持っている施設（コテージ等）で短期滞在→定住促進として減免 ・人口減少に対する危機感を持つことで地域受入の一体感をつくる ・期間を設けた移住体験の実施（空き家を活用した短期滞在施設の提供） ・地域内に移住者をお世話する人づくり ・移住者受入の地域の説明会の開催（移住者受入の理解が必要） 	活力1
活動の担い手の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のリーダーが育たなくなってしまう ・地域のボスの発信力の弱体化 ・各種参加者が必要 ・高齢化や人口減により、地域の清掃活動等ができなくなるかも ・地域の枠にとらわれない、各種団体の支援が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの参加者を増やす ・地域のリーダー（課題を把握し、適した担い手をつなげる人）を育てる ・NPO等団体の支援を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任を持ってやり抜く気持ちの育成。 ・社会活動に参加させる意識づくり ・地域で次のリーダーを育てる仕組みづくり。 ・ボランティア団体の育成 ・NPO等の育成・支援 	活力2
活動機会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で、まちづくり担い手を育成する機会と体制が必要 ・NPO・団体などが活躍できる機会が必要。活躍機会を増やすことで、現場で学び、自らの育成に。 ・NPO そのものが住民に理解されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのまちづくりの機会・体制づくりを推進する ・NPO等団体の活動をPRし、各種団体の存在と活用法を周知 ・市民とNPOをつなぎ、NPOが活躍できる場の提供 		活力2
活動支援組織	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO・団体などを育成する組織（中間支援組織）を活用 ・まちづくりの財源を調べられるところがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手育成の場として、中間支援組織の活動を充実・PRする 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり市民協会のPRと会員増 	活力2
若者の交流の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・晩婚化、未婚率の上昇 ・出会いの場が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いの場を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者会議の継続的な開催。 ・街コンの実施 	安心

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策	
活力	みんなでまちをつくる	地域の自治力を高める	地域の課題を自ら考え、取組む地域自治力を高めるために、地域組織の強化と活動を支援します。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
地域組織の強化・充実	<ul style="list-style-type: none"> 自治会未加入世帯の存在（アパートなど） 子育て中は子ども会活動参加のため自治会加入するが、子どもが大きくなると自治会を脱ける人もいる 人口減少により、周辺部で自治が成り立たなくなる（大井・長島以外） 青年団・婦人会等、元々あった組織が消滅 子どもと地域の関わりや、近所付き合いが希薄 子どもが大人になったときに、ふるさとを思い出し、暮らしたいと思う地域に。 	<ul style="list-style-type: none"> 加入世帯の向上 地域担い手の数ついて、少なくとも現状を維持 役が多いため、組織の効率化を図る コミュニティの育成（効果的・効率的存続） 子どもと地域の関わりを推進する 近所付き合いを推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 加入世帯を向上させる工夫。 負担の軽減。 未加入理由の整理（①会費が掛かる ②人とのつきあいが煩わしい ③役職が回ってくる）と、加入促進対策 現状を維持する仕組みづくり・効率化。 各種団体のあり方と役割を整理。 学校以外の地域活動で地域と子どもが協力する。 「向こう三軒両隣」精神の復活（→地域自治の根をつくる） 	活力2
運営体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 担い手を活用できる体制が必要 市の、地域自治への理解や、自治力の育成体制が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> 担い手が地域で活躍できる体制づくりを推進 市の支援体制を確立する 	<ul style="list-style-type: none"> 担い手が地域で活用する仕組みづくり。 担い手を発掘できる仕組みづくり。 困難を有する子ども・若者など、誰でもまちづくりに参加できるよう支援。 女性が参加しやすい体制づくり 各町にまちづくりを支援する専門員を置き、積極的に地域自治を支援。 地域意見の市政への反映方法 市の施設の積極的な活用を支援 	活力2
市民の連帯感	<ul style="list-style-type: none"> 市民の連帯感が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の連帯感を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の歌を制定する等、市民の連帯感を強化する。 	活力2

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
活力	みんなでまちをつくる	様々な担い手がつながる 地域組織、NPO、サークル等の地域の多様な団体・グループがそれぞれの特性を活かしながら活動を活性化させるために、団体・グループ間の連携を推進します。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
連携支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいづくり・仲間づくりができる場所が必要 ・ママ友でハンドメイド品などを販売しようと思っても、市の施設だと販売にあたるので場所が借りられない。 ・活動を知ってもらわなければ組みようが無い ・各担い手をつなぎ、連携を支援する組織（中間支援組織）が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいづくり・仲間づくりができる場所づくりを推進 ・各種媒体や人脈などを活用し、活動を発信することで交流の場の拡大を図る ・中間支援組織の活動を充実・PRする 	<ul style="list-style-type: none"> ・気楽に集まれる交流の場づくり ・ママ友が気軽に集まれる場、コミセンなど市の施設を活用できれば。 ・人脈を使っでの交流の場を拡大する ・町の行事など、連携に向けた情報の発信 ・各町の広報誌の作成のあり方（どう情報を掲載するか）と発信・共有方法の検討 	活力2
地域間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・共助力が弱い（地域と地域の連携） 	<ul style="list-style-type: none"> ・共助力の向上 		活力2
地域と団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を効果的に解決できるよう、NPO等の団体との連携が必要 ・地域と高校・大学で連携しては 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とNPO等の連携支援 ・地域と学校の連携支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事運営に、小・中学校、高校、大学でボランティアを募る等、連携する 	活力2

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
活力	まちを元気にする	産業を発掘・充実する 新分野産業の育成、既存企業の育成、農林業の経営基盤の強化を図り、安定した雇用と地域の活力の基盤となる産業を振興します。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
起業・企業支援	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代は原資がない 起業したいが場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> 起業融資制度の構築 起業適地の発掘 	<ul style="list-style-type: none"> 新規起業者の金融機関、起業コーディネーター、行政がそれぞれ役割を示し、マッチングする。(起業融資) 起業家が求める適地(地域)をリストアップし情報提供する 	活力1
企業誘致・支援	<ul style="list-style-type: none"> 魅力のある企業が少ない 地域貢献する企業が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力のある企業の創出、誘致 地域に根ざした企業の創出、支援 	<ul style="list-style-type: none"> リニアの開通を見込んで中央での先端研究機関等の誘致(優秀な人材の雇用先となりUターンにもつながる) 	安心
雇用の確保	<ul style="list-style-type: none"> 働く場所がない リニアを生かした産業振興が重要 地元企業は雇用の確保ができない 	<ul style="list-style-type: none"> 若者が定住するために、希望する進路に見合った働く場所の確保が必要 若者が都市部に行かなくても、地域で仕事ができる企業が増えることが必要。 自然災害が少なく、日本の真ん中にあることをPRした企業誘致、中部車両基地(工場)に隣接した地域の特性を生かした関連企業の誘致 将来を見据えた人材確保 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある企業の誘致を推進する 農業：個人農家の多い地域、集約化し企業の参入による経営 林業：若者の活躍ができる企業や団体の参入支援策 商業：リニアを活用した商業誘致を地域ぐるみで計画 工業用地の確保、適地情報の収集、企業誘致の推進、新しいワークスタイルを実現する企業の支援 工業用地の確保、適地情報の収集、企業誘致の推進、新しいワークスタイルを実現する企業の支援 地元企業、事業所に有能な人材を求めるよう促す 	活力1
商業	<ul style="list-style-type: none"> 大型店舗の出店により、商店街が空洞化しつつある 個人商店等に元気が無い(売上げの減) 	<ul style="list-style-type: none"> 地元商店街の研究(経営や集客)及び賑わいによる発展 地域の歴史・文化と連携した商店街の活性化 衣食住の充実と観光と連携した商業の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 研究費への支援、活動支援 歴史・文化と景観に配慮したまちなみの整備、観光地の再整備、商店街活性化 恵那峡サービスエリアと併設したハイウェイオアシス、リニア需要への対応 	活力1
恵那ブランド	<ul style="list-style-type: none"> 地域の多くの種類を売り込むことはいいが、何が恵那ブランドなのかわかりづらい 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の多くの種類を売り込むことはいいが、何が恵那ブランドなのかわかりづらい 対外的な情報発信(恵那市の知名度が上がり、地域が元気なる) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の多くの種類を売り込むことはいいが、何が恵那ブランドなのかわかりづらい 地域資源の魅力を発掘し、活用・磨き上げて情報を発信 	活力1

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
林業	<ul style="list-style-type: none"> 山の荒廃 獣の被害が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 森林再生 林業経営 里山づくり 鳥獣害対策 	<ul style="list-style-type: none"> 木の駅プロジェクトの推進 森林組合による森林管理の推進（国による制度の充実を想定） 林業で生活できるシステム若しくはその周辺事業と合わせた支援、林業研修 木質ペレット産業の構築 技術者を増やして技術の底上げをする 山の現状を知り、山に親しむ機会（イベント等で山に入る機会）の拡大 若い人たちが自然を見るだけでなく、管理に目を向ける（森林管理へのボランティア参加） 山は山の生態系を守るため、針葉樹から広葉樹の森とする 山林の適正な管理（森林保全等に携わる人材の確保） 被害防止策の成功例の実践・普及 	活力1
農業	<ul style="list-style-type: none"> 農林業の担い手不足 農林業への就業希望者の定着が難しい（農林業が簡単にはできない） 	<ul style="list-style-type: none"> 営農組織の育成 農地の維持・活用 移住者のニーズに応える施策の構築 農業体験や田舎体験を通じた交流を推進 農産物等の価値を上げるとともにブランド力を強化 	<ul style="list-style-type: none"> TPP問題や原発廃止に備える、組織の構築。国制度等を活用しながら、新しい公社をつくり、担い手の育成や若者の雇用を確保する。 新規就農者の受け皿となる営農組織を充実 農地維持の補助金の創出（農業希望、移住者へ農地利用支援） 農地バンクの創設 農地の維持活動、若者の農業経営に対する支援 就農支援要件の見直し（農地の取得条件の緩和） 耕作放棄地を活用した栗園の拡大 地域活動に新規就農希望者の参加を促す 農地提供者の把握と「農業スクール」等の実施 農業体験の推進、農業のある暮らしの推進、観光農園の整備、農村景観の保全、新規就農支援 農業・林業等の自然相手の仕事の魅力を発信 山、イベント（薪割り、農作講習等）やりながら山の手入れ。産業と観光をうまく結びつつ、活用する。） 恵那らしい食の提供に向けた空間の創出、農産物のブランド化の推進、販路拡大の推進、新たなブランド化の推進、お米と安全な食の推進、恵那の食文化・歴史の活用、食の伝承と体験の推進 インターネット等を活用した消費者への直接販売の拡大 	活力1

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
活力	まちを元気にする	交流で元気になる

地域が主体となって地域の資源の魅力を発掘・磨き上げる観光まちづくりを推進し、来訪者との交流を通じて地域が元気になる観光を推進します。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 地域の観光の連携と体系化が出来ていない 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の資源の組み合わせ 恵那市観光協会支部との連携 地域及び各種団体と相互連携の強化 リニアを生かした観光振興（集客） 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域の観光資源のネットワーク化 地域資源を活用した体験型観光メニューの創出 年間を通じた多彩なイベントの開催「まちのにぎわい」 産業観光、歴史観光、自然観光の推進 市全体として取り組む観光振興の方針の確立 支部間の連携による終日楽しめるメニューづくり（地域資源を活用） 観光に対する地域内の各種団体の協体制づくり 各地域の関係団体等のネットワーク（観光テーマ別） 東濃地域の各都市との連携強化（地域に滞留させる方策） 鉄道を活用した観光（明知鉄道の「観光鉄道」とする） 	活力1
観光・魅力	<ul style="list-style-type: none"> 新しい観光のあり方がない、インパクトがない 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい目線での観光のあり方を探す 地域資源の掘り起こし 外国人観光客の誘致 	<ul style="list-style-type: none"> 本来、産業や文化、歴史、スポーツ、まちづくりといった資源を観光と呼んでいるが、既存の観光資源（歴史、文化、風土、自然）を活用した新しい観光のあり方の構築（地元の人には見えないいい物を探り出す） 観光ニーズの変化を踏まえ、新しい目線で地域の観光資源の発掘と新たな観光のあり方の検討 観光客が選ぶ「観光（史跡や歴史を活用した観光）」を検討 ツーリズムの推進 自然を活用した観光や里山を資源とした整備（秘境めぐり、エコツーリズム） 地域が主体となる観光のあり方を実施 古さと新しさが融合するまち（拡張現実技術）外国人誘致 観光名所の発掘、観光素材の再発見 恵那の暮らしの観光推進 宿泊施設のPRと活用 外国語による案内表示、観光案内の充実 外国人観光客のニーズにマッチした観光資源の発掘（日本の生活文化の体験等） 	活力1

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
観光・魅力 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恵那にはこれ！といったものがない ・ 特産品の知名度がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リピーターを増やす施策の構築 ・ 既存の観光資源を活用した魅力ある観光地づくり ・ 食ブランドの発見 ・ 恵那の素材を生かした「食」を提供 ・ 恵那観光ブランドの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人のふれあいによる観光魅力の創出（おもてなしの心の醸成） ・ 食事や土産などでお金が落ちる仕組み ・ 豊かな自然や歴史を絡めた魅力的な地域を市民が創る ・ 観光ガイドの育成と支援 ・ 観光地の整備、景観の整備・保全 ・ 食のブランド（恵那にしかないもの）のインパクトで観光客を誘致する。見る物よりも、食べる物の方がリピーター率はある。 ・ 昆虫食、シビエ料理など、恵那ならではの食文化のPR ・ 食の集積と場の提供、ローカルフードの再発見とPR、グルメの展開、レストラン・飲食店の活用と支援、新商品の開発支援とPR、和洋菓子と観光の連携による情報発信、食の伝承と体験の推進 ・ 特化した観光メニューづくり ・ 全市としての一体感のあるPRの方法 	活力1
PR・案内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内外共に情報発信不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の玄関口での情報提供 ・ 全国的なPRの展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恵那駅前での観光案内の充実（改札口から観光案内所への誘導、観光案内看板の設置等） ・ ターゲットを明確にしたPRの展開（内容によっては、ターゲットを絞ってPRする） ・ 観光PRの推進 ・ 観光情報発信施設の整備 	活力1

基本施策 課題と対応シート

理念	基本目標	基本施策
活力	まちを元気にする	循環型社会をつくる 地域自然資源を活用したエネルギーの開発と活用、知己の農産物の地域内消費の促進など、エネルギー・食の地域内循環の仕組みをつくり、地域の自立性を高めます。

区分	課題	方向性・目標指標	提案された意見 ※H27年度で具体的に検討	検討した部会
自然エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 間伐材等、山の木が利用されていない 環境に優しいエネルギーを使う 	<ul style="list-style-type: none"> 木材資源を活用した新エネルギーの開発 現在ある資源を利用したエネルギー開発 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの地産地消実施し雇用を創出（間伐材、木くずを活用した木質ペレットの製造、発電） 間伐材を木質エネルギーとしての活用を真剣に研究するために専門家を交えた研究会を発足させる 間伐が必要な山が多いが、木材の使用場所が限られている。また、薪ストーブ・ペレットストーブ・薪ボイラー設置の補助金の創出 保育園・学校などを薪ストーブにするなど家庭や公共の場所で使う資源を石油から地元の資源にすることで県外・海外へ支払うよりも市内・県内でお金が回るようになる。設置への助成金が必要。 温泉施設で「まきボイラー」を活用 多様な自然エネルギーの開発（バイオマス、小水力発電、風力、太陽光） 	活力1
地産地消		<ul style="list-style-type: none"> 地産地消の推進と環境の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消の推進、環境保全の推進と産業の振興 	活力1
企業・企業間・地域・の市内連携	それぞれの商業関係者、大手企業、地域で儲かる仕組みがない	<ul style="list-style-type: none"> 相互において、縦貫できる仕組み（作る、売る、雇用、元気） 	<ul style="list-style-type: none"> 企業や地域が連携し、最終的に地域が潤う仕組みを構築 企業間同士及び商店等の連携による新しい商業 	活力1
地産地消（食の安全）	<ul style="list-style-type: none"> 「身土不二」（人間の身体と土地は切り離せない関係にあり、その土地でその季節にとれたものを食べるのが健康に良いという考え方）という精神の普及 地元の食品、食材の売り込み不足 恵那産の食物を手に入れたいが、近所のスーパーや商店で買えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消を推進して健康的な食生活を実現する 	<ul style="list-style-type: none"> 食の安全に関する情報の提供 有機農作物の振興 学校給食、福祉施設等への積極的な食材提供 スーパー以外での地元の野菜など、手に入れられる場所を提供する 無人販売所マップの作成 地元農家さんの集合販売所を設置する 確実に利用を確保できる大口の消費組織を作っていくことが必要。 	安心